

自己評価シート

職員による自己評価

A環境面
 教室内の整理整頓等については、改善した成果も出ているように思われる。人数の配置については、十分に感じていない結果もあり、課題がある。

B利用者への支援内容
 個別支援計画書やモニタリング報告書について、実際の支援に十分に活用されていない傾向もみられる。今年度カフェを十分活用できなかった状況があった。

C関係機関との連携
 多くのスタッフが不十分だと感じている。

D保護者への説明責任・信頼関係
 活動報告の実施や、ヒヤリングの機会の不足を感じているスタッフの割合が多かった。

E非常時対応
 特に、アレルギーや病気、けがに対する対応について情報の共有の不足や、その対応に不安を感じている様子がみられる。

保護者による評価

A環境面
 スタッフの人数に対しての評価が、若干少なかった。

B利用者への支援内容
 学習支援に対しては十分だとの評価が多い。カフェコーナーへの理解が少ない。

C関係機関との連携
 学校との連携、他機関との共とも十分と感じている保護者は少ない。

D事業所からの情報発信
 事務的や緊急の連絡については、良い評価であるが、ホームページ、ブログ等の利用は少ない様子である。

E非常時対応
 緊急時対応訓練については、理解が進んだ。反面、アレルギーや病気、ケガに対する対応が十分だと感じている保護者は少ない。

事業所内での分析

【共通点】

・職員、保護者とも相談や面談の機会が少ないとの結果が見られた。コロナ感染防止対策もあり、十分な対面でぼやり取りができなかったことが原因と思われる。電話やインターネット等の工夫が足りなかった。

【相違点】

・大きな相違は見当たらないが、カフェに関しては、保護者の関心が職員より少なかったは利用自体少なかったと思われる。

分析・検証してみた

事業所の強み

- ①当事業所の支援の中心である学習支援については、保護者も高く評価をいただいております。ニーズに合った支援ができています。
- ②支援の成果を感じている保護者も多く、継続した来所につながり、利用児の将来を見据えた支援ができています。
- ③利用児のリラックスできる居場所となっている
- ③スタッフも仕事についてやりがいを感じている割合も高く、意欲的に支援に取り組んでいる。

事業所の改善点

- ①学校との連携、他機関との共有については職員、保護者ともに不十分さを感じているので具体的に検討が必要。
- ②保護者との面談や、活動報告の内容や回数について。
- ③事業所からの通信について、保護者の目にふれやすくわかりやすいものにする。
- ④職員の福利厚生を満足を得られるものにしていく。

事業所の改善への取り組み

- ①児発管を中心に、地域との連携を深め主に学校ともつながりを持つよう努力する。また計画相談事業所とも連絡を密にし、利用時の情報共有を多く持つ。
- ②コロナ禍であっても、メール、電話等方法を工夫し、保護者とのやりとりの機会を確保していく。
- ③職員間でコミュニケーションをより多くとり、悩みや不安を共有し連携して支援に当たることができるよう努力する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者より学習報告要望や、カフェ活動の利用の減少、また職員の福利厚生への要望など、コロナ禍であることの影響が見られた。感染状況を見ながら、そういった活動の再開や拡大をぜひ実現したいと感じた。

また、学習支援や居場所支援といった当事業所の活動内容が保護者から評価を得ていることを実感し、今後も誠実に支援にあたっていきたいと思う。

事業所名 レクタス放課後等デイサービス三ツ境教室

担当者 小林 由貴子